No.（２２）令和３年度　地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

<table>
<tr><td>事業名称</td><td colspan="4">「古町学ことはじめ」</td></tr>
<tr><td>実行委員会</td><td colspan="4">みなと新潟実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中 核 館</td><td colspan="4">新潟市歴史博物館</td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3">〒951-8013　新潟市中央区柳島町２－10</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>025-225-6111</td><td>FAX</td><td>025-225-6130</td></tr>
<tr><td>ホームページ</td><td colspan="3">http://www.nchm.jp</td></tr>
<tr><td>構成団体</td><td colspan="4">路地連新潟、新潟古町花街の会、新潟中心商店街協同組合連合会/新潟古町まちづくり株式会社、新潟商工会議所、新潟市中央区地域課</td></tr>
<tr><td>事業開始時点の課題分析</td><td colspan="4">新潟市の前身である信濃川河口に位置した新潟町は、江戸時代から明治にかけて廻船が行き交う日本海側有数の港町として栄えた。安政５（1858）年の修好通商条約では日本海側では唯一の開港５港の一つに選ばれ、明治元（1869）年に開港した。開港場となった新潟町には県庁が置かれ、商業の町に加え新潟県の行政の中心にもなっていった。このエリアは現在の新潟市の中心市街地にあたる。
そして平成31（2019）年、開港150周年を迎えるにいたるが、時代とともに港町としての機能はなくなり、町の性格も変わってきている。そのため、港町としての歴史や文化を市民があたり前のように感じ取れる機会には恵まれず、町の魅力となるはずのそうした資源も埋没している状況にある。埋没した港町としての歴史・文化資源を市民生活の活力の源へと押し上げ、その魅力を外へ発信していくことが、本地域に所在する新潟市歴史博物館やまちづくり推進者の課題である。</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">町の歴史文化を探求し、その魅力を導く市民参加型の学習機会として「古町学」を設立する。古町は通りと小路、堀からなる新潟町の通りの一つで、江戸時代には旅籠や職人が店を構える地域だった。明治22年に新潟町は新潟市となり、その後市域は拡大していく一方で、古町は町の繁華街として市民の楽しみの場所となり、「古町」の名称は江戸時代にさかのぼる旧新潟町の代名詞になっていった。
「古町学」では、古町を抱く江戸時代の新潟町のエリアを学びの場として設定し、その地域の歴史・文化・魅力を掘り起こし、市民と共有することで地域への愛着を導き、暮らしの中の活力とするとともに、まちづくりや観光振興の資源へと発展させることを目的とする。
その初年度を「古町学事始め」とし、その地域の価値や魅力を広く市民に知ってもらい、活動への理解と参加を促すイベントを展開する。</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="4">市民に地域の歴史の魅力に気付かせ、次に展開する能動的な学びへ導くために、イベントを含む次の活動を実施する。
はじめに「古町学」の設立にあたる告知と参加を呼び掛ける活動である。「古町学」設立の趣旨説明、開催イベントの広報、市民調査・研究員の募集及び関連講演会を実施する。また以後のテーマの設定や活動の指針作りとして、“古町の歴史・文化・魅力・今”を探求するため、古町とかかわりの深い歴史研究者、まちづくり関係者、芸能関係者、商業者、観光関係者などを取材し、古町への日頃の思いや未来への展望を語ってもらう。さらに子どもたちの地域学習への参画を促すワークショップを夏休み期間中に開催する。
次に地域の歴史的な魅力を発信する２つのイベントを開催する。１つが江戸時代のイベントを資料に基づいて再現するもので、白山神社を参詣する芸妓が着飾って古町通を</td></tr>
</table>

	練り歩いた「新潟芸妓の古町行列」を芸妓に扮した一般参加者を募り実施する（※H31年度文化クラスター形成支援事業で採択され、コロナ禍により中止）。本イベントは当実行委員会の構成団体である新潟市商工会議所事業と合同で開催し拡大を図る予定。2つ目が近世の湊を追体験するもので、信濃川の水上バスを、新潟湊を行き交う舟運時代の船に見立て水上からかつての湊町を臨みながらその歴史・文化に触れ魅力をさぐる。 　最後に事業をふり返る活動として、報告会を行い、成果を確認するとともに、次年度以降の活動テーマの発表や調査・研究員の募集などを行う。また成果は広くパネル展示し、多くの市民に訴えかける活動を行う。
実施項目 ・ 実施体系	１．あらたな学びの機会の創出活動 （１）　古町学設立集会と記念講演会 ①　参加者募集告知 ②　集会・講演会の実施 （２）　この人に聴く“古町の歴史・文化・魅力・今” ①　取材先との事前協議 ②　取材 ③　とりまとめ （３）　こどもの古町学ワークショップ ①　参加者募集告知 ②　ワークショップの開催 ２．地域の歴史的な魅力発信活動 （１）　江戸時代のイベント復元「芸妓の古町行列」 ①　事業検討会議の開催 ②　関係各所との事前協議 ③　イベント開催告知 ④　参加者事前勉強会の実施 ⑤　イベントの実施 （２）　湊町再発見「信濃川から町の魅力を探る」 ①　関係各所との事前協議 ②　参加者募集告知 ③　ワークショップの実施 ３．事業成果の公開 （１）　成果の取りまとめと公開 ①　成果報告告知 ②　成果報告会の実施 ③　成果発表パネル展示 ④　古町学パンフレットの発行
実施後の 成果・効果等	「古町学ことはじめ」設立集会・記念講演会では、多くの参加があり、参加者から「古町学」として扱いたい、調査研究テーマがいろいろと寄せられた。このことは自らの手で地域を学ぶ、地域を知るという主体的な学びの基本が参加者それぞれに内在していることを示し、今後の展開について心強い結果であった。さらにインタビュー調査をはじめ、各ワークショップを通して、今後の調査研究テーマの視座を得ることができた。また、こども向けワークショップの調査では、特に地域の方々の協力が不可欠であった

	が、多くの方々が快く協力してくださった。このようなつながりの形成が「古町学」の広がりに必要であろうと考えていたので、それを達成できたのは大きな成果だった。 また、「古町芸妓の練り歩き」イベントでは、当日の来場者数やSNSでの発信など、イベントそのものへの反響も大きかったが、イベント終了後に、商店街をはじめとする新潟の商業界や観光業界、行政など各方面から次年度以降のイベント継続への期待や要望が寄せられた。このことは『潜在する地域資源に光をあて、発信力を高めて文化観光を担う資源へと発展させる』という当初目標を達成したと言ってよいのではないかと考える。

【事業実績】

1. 新たな学びの機会創出活動

（1）古町学設立集会・記念講演会の開催

開催日： 7 月 25 日（日）　会場：新潟市民プラザホール

参加者：134 名

2 部構成で実施。第1部は、古町学の定義となる古町の歴史的な経緯や、

第 2 部は、「どう楽しむ？」と題して、古町をフィールドに多方面で活躍する若手研究者に、古町の魅力を語ってもらった。

第２部 久保有朋氏の講演 会場の様子

【参加者の声】

〇過去や昔の古町らしさにとらわれることなく、新たな古町の価値を見出していきたいと感じた。

〇子供たちにも文化・歴史・重要文化財などを学ぶ機会を作ってほしい。私たちも伝えていかなければ。

〇古町通だけが古町地区ではない。ほかの古町地区の掘り起こしも古町学で行ってほしい。

（2）インタビュー調査 「この人に聴く“古町の魅力・歴史・文化・今”

3つの視点から“古町”に関わる人を選び、公開インタビューとして、話を伺った。残念ながら、7/13 と 9/4 はコロナなどの事情で公開にできなかったが、貴重な話を伺うことができた。同席した市民調査員からは古町地区への愛着や、古町地区が果たすべき役割に関する考えなどが意見として寄せられ、地域の人々が古町地区に対して強い想いを持っていることがよく分かった。これを多くの人と共有し、新たな価値を見出す仕組みづくりが必要であると感じた事業であった。

7/13 郷土史家　蒲原宏氏への調査

9/4 古町花街

9/19 歴史的建造物・町並み

9/28 商店街

【参加者の声】

〇実際にそこに住んで店をしている方の話を聞き、いろいろな工夫がわかった。わかるとまた、知りたい、行きたい、という思いがわいてくる。こういう機会をもっと増やしてほしいし、アピールしてほしい。

〇古町は新潟の歴史を語る地区としての役割を担ってほしい。

〇歴史ある建物の状況や空き店舗、住まいの実態について具体的に知りたい。

〇町の賑わいを如何にとりもどすか。街づくりに若者の声を反映させる必要を感じる。

（2）子供たちの古町学ワークショップ

「古町こども研究所」での調査研究事業

８月７日（土）現地調査、 ８月中旬アンケート調査

10 月２日（土）まとめ作業

参加者：12 名（小学 1・2 年生：5 名　小学 3～6 年生：7 名）

8/7 「はり糸」でのインタビュー調査

低学年と中・高学年の 2 部に分けて、事業を実施。低学年は、現在の商店街を現地調査した。この調査と 52 年前の地図をもとに、商店街での商店の分布や扱う品による分類を行い、商店街が今と昔とでどのように変化しているかを調査した。

中・高学年は、商店街で働く人について、商店でのインタビュー調査と古町地区のオフィスで働く人に、古町通商店街と自分との関わりについてアンケート調査を実施した。アンケート調査では 420 名の回答を得た。これらの調査結果については、参加者が取りまとめたものを事務局でパネル化し、巡回展で紹介した。

【参加者の声】
○自分が住んでいる町がどんなふうに変わってきたかを知れたので面白かった。
○古町活性化について、もっといろんな人の話を聞いて考えてみたい。
○おばあちゃんと行ったことのあるお店の昔の様子はおばあちゃんも知らないことがあったのでびっくりした。そんな昔からお店が続いていることがわかって楽しかった。

2. 地域の歴史的な魅力発信活動

(1)「復活！古町芸妓の練り歩き　江戸時代の古町の賑わい再現」

10 月 31 日(日)　古町5～7番町、白山神社にて開催

参加者：古町芸妓 13 名、一般参加者 20 名　来場者：およそ 1500 人

江戸時代、春の白山神社の祭礼時に着飾った花街の女性たちが古町通から白山神社に参拝していた行事を現代風に復元してイベント化した。

コロナ第5波直後で懸念もあったが、多くの観客が集まり、SNS への投稿も多く見られた。TV の地域ニュースでも一般参加者の密着取材の特集が放映され、反響があった。各方面から事業継続を希望する声が上がっている。

白山神社の拝殿に向かう行列の様子

【行列参加者の声】
○貴重な機会に参加できて、多くの方がイベントを見に来られて、古町に活気が戻ったように思えて嬉しかった。
○白山詣でや古町芸妓のことを学ぶことができ、イベントに参加するだけでなく学びがあったことがとても良かった。
○今回の開催をきっかけに、このイベントが新しい新潟の年中行事として大きくなっていってほしい。
○イベントで古町の可能性を感じることができた。自分にもできることを探して、古町を盛り上げる一助になりたいと思う。

(2)湊町再発見ワークショップ「信濃川から街の魅力を探る」

開催日：9月25日(土)　参加者数：22名

信濃川ウォーターシャトルを利用して近世の新潟湊と新潟町の関係を現代にとらえなおし、文化観光資源として川・舟運を考えるものとして実施した。全2回のワークショップを計画していたが、コロナ第5波の最中であったため、時期をずらし、事前学習と巡検を1日で実施し、まとめ作業は各自の書面提出をもってこれに代えた。参加者からは、現代の舟運を歴史文化の視点を含めつつも、リフレッシュやガストロノミーの観点からとらえなおすものなど、新しい可能性などが示された。

船上より町並みを見る参加者

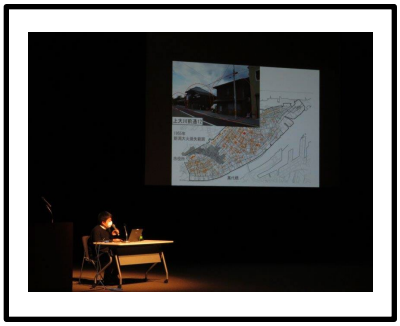
3. 事業成果の公開

(1)成果報告会の開催

開催日：2022年1月16日(日)　会場：新潟市民プラザ

参加者：76 人

第1部で事業報告、第2部では渡邉篤史氏を講師に迎え、「古町地区の町屋と町並み」と題し講演を実施した。古町地区の歴史的建造物の割合や密集エリア、町屋の形態など具体的な例示により参加者からも好評を得た。


第２部　講演の様子